

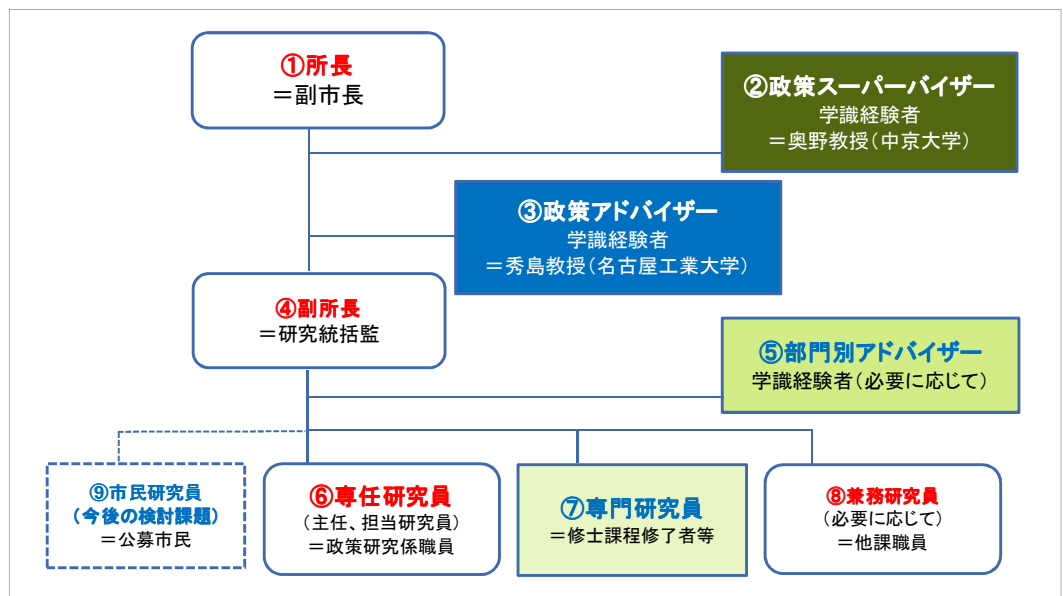
# 「安城市みらい創造研究所」設立準備室レポート

平成 25 年 10 月 — 平成 26 年 3 月

本市を取り巻く社会環境は、少子高齢化の着実かつ急速な進行やエネルギー政策、地域産業の抜本的な構造転換、雇用環境の安定した持続など中長期的・分野横断的な課題が山積している。また、自治体を取り巻く環境についても地方分権の進展に伴う、行政課題の多様化と住民ニーズの高度化が進み、行政職員に求められる能力や役割は大きく変化している。

そこで本市では、こうした不透明な将来に対しても、引き続き安定した行政運営を行うため、大学をはじめとする専門組織と直接連携し、これまでの行政の発想とは違ったより高い視点で本市における課題を集中して調査・研究を行なう専門機関として、自治体シンクタンク「安城市みらい創造研究所」を平成 26 年 4 月 1 日付けで組織する。

## ☆ 研究体制



## ☆ 研究所の機能

### ✓ 調査研究機能

根幹となる機能として、実効性を有する政策提言のため、様々な情報の分析・研究を行う。

→ 事例調査、アンケート調査、フィールドワーク、重点的テーマの研究 など

### ✓ 政策支援機能

政策の実現に向けて必要とされる情報等を、適宜、各担当部署へ提供することで、政策推進に向けた連携を図っていく。

→ 政策の相談窓口、調査研究に関する報告、メールマガジンの発信 など

### ✓ 人材開発機能

市民にとっての行政の価値と満足度を高めるため、研究所からの情報発信を通して、行政職員としての政策形成能力の向上を図っていく。

→ フォーラムの開催、勉強会の開催 など

## ☆ 安城市みらい創造研究所の使命について

大きな変革期にある現在においても、これまでと変わらず、またこれまで以上に「市民一人ひとりが生活の豊かさとともに幸せを実感できる」ための政策提言を行っていくことが、安城市みらい創造研究所の使命であると考え、全ての市民が家族とのつながりを大切にしながら、安心して暮らし続けることのできる安城市を実現するため、「みらい」に向けた調査研究を「いま」から推進していかなければならない。

研究所の使命	「市民一人ひとりが生活の豊かさとともに幸せを実感できる」 ための政策提言を行うこと
--------	--

## ☆ 研究所の使命を果たすため、今後重点的に取り組んでいかなければならない調査研究

### ✓ 市民幸福度の向上

モノの豊かさを手に入れても、なお様々な社会問題に直面する現在、国民総生産(GNP)のような物質的豊かさや経済効率の追求ではなく、それに代わる心の充足(幸福)が大切であるという、市民生活の真の豊かさをあらわす「幸福度」への関心が高まっている。

そもそも主観的な概念である幸福とは、それを実感する尺度に個人差があり、多種多様で非常に複雑なものである。市民一人ひとりが幸せを実感できるまちづくりを目指すため、研究所においては広く先進事例や文献から情報を収集し、幸せに関する構成要素を分析するとともに、本市における地域特性や市民の声を正確に把握し、新たな幸福度指標によるまちづくりを検討していかなければならない。

### ✓ 次期総合計画に掲げるまちづくり

次期総合計画に掲げる本市の将来像と研究所の示す本市の将来像は、ともに同じ「みらい」を示すものであり、研究所が示す先を見据えた「みらい」の道筋の中に、次期総合計画を通して、より一層具体的な「みらい」を提示していく必要がある。

したがって、研究所が示す将来の展望・まちづくりのあり方を、次期総合計画における将来ビジョン(基本構想)の骨子として反映させるとともに、その成果をより具体的かつ実効性の高い施策として次期総合計画に盛り込んでいくことが、今後の本市のまちづくりには重要であり、目指すべき新たな都市像についての検討を研究所と次期総合計画で足並みを揃えて進めていかなければならない。

### ✓ リニア中央新幹線開通による影響・可能性(リニアインパクト)

本市にとって大きな影響・可能性を与える大きな要因の一つとして、2027年に東京・名古屋間での開通が見込まれているリニア中央新幹線がある。

今後大きな影響を与えることが予想され、これまでの既存組織の枠組みを超えた組織横断的かつ裾野の広い調査研究が、研究所には求められる。すでに愛知県や名古屋市において、新たなまちづくりに向けた動きが活発に行われている中、リニアインパクトにまつわる様々な動きに乗り遅れることのないよう調査研究を進めていかなければならない。

☆ 「互恵(5K)きらめきプロジェクト」について

「市民一人ひとりが生活の豊かさとともに幸せを実感できる」安城市を実現する上で重要なキーワードとなる「市民幸福度」の向上について、この「幸福」とは、

☆健康(Kenکو) ☆環境(Kankyo) ☆経済(Keizai) ☆きずな(Kizuna) ☆こども(Kodomo)

を視点とする5つのK(5K)が市民生活において、きらめく星のごとく同時に高い水準でバランス良く満たされることによって、多くの市民が互いにその恵みを受けることができるものであると定義した。

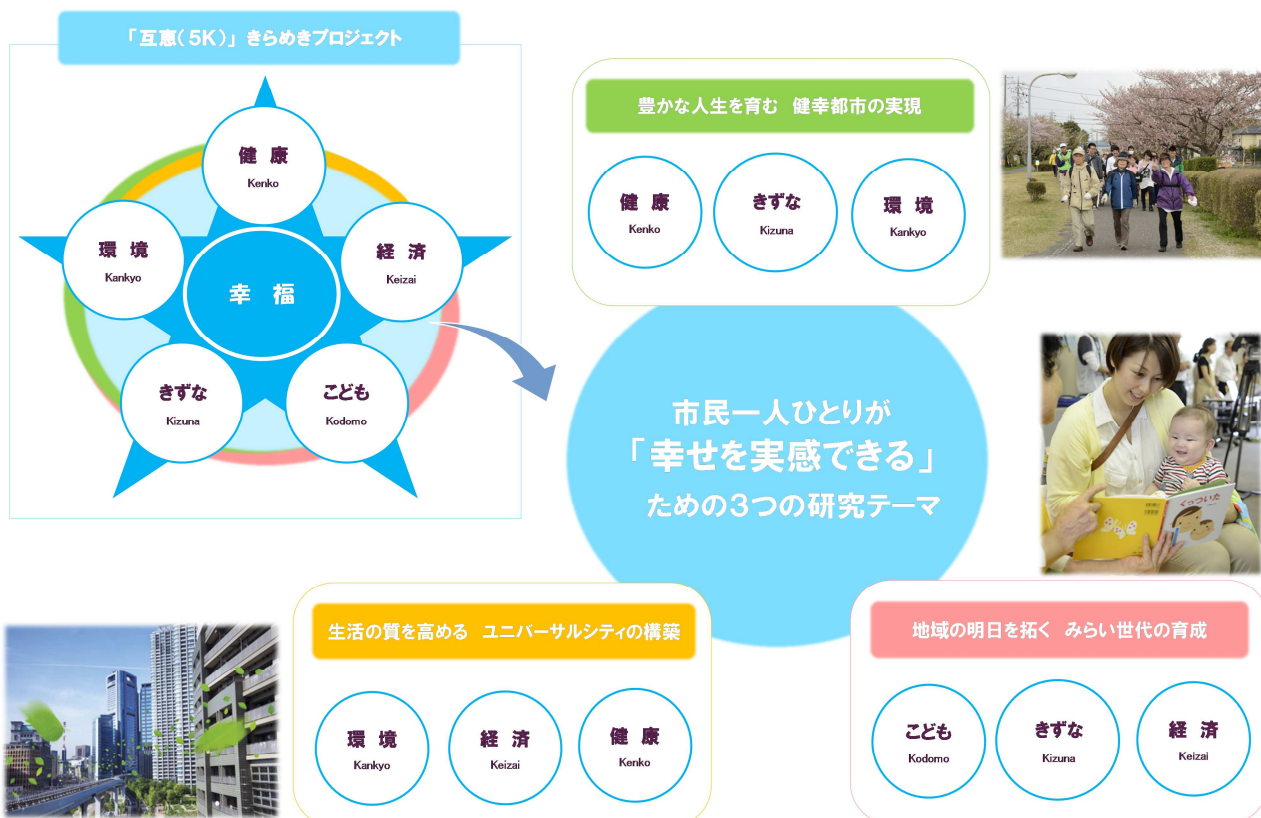
今後、この「5K」の充実を図り、市民幸福度を高めることを目的に、複数の「K」と相互関係が深く、また、関連する事業分野が多岐にわたり従来の行政組織では対応が困難な行政課題から、未来に向けて新たな展開が期待できる実効性の高い政策研究(プロジェクト)を進めていく。

☆ 3つの重点的研究テーマについて

研究所の使命である「市民一人ひとりが生活の豊かさとともに幸せを実感できる」まちづくりに向け、「互恵(5K)きらめきプロジェクト」のキーワードを軸に、以下のとおり3つの重点的な研究テーマを設定した。

研究テーマ		関連するキーワード		
豊かな人生を育む	健幸都市の実現	健康	きずな	環境
地域の明日を拓く	みらい世代の育成	こども	きずな	経済
生活の質を高める	ユニバーサルシティ※の構築	環境	経済	健康

※「ユニバーサルシティ」とは、生活の質と効率性を高めるための「人」と「環境」にやさしい都市構造のこと



## ☆ 3つの重点的研究テーマの概要

### 「豊かな人生を育む 健幸都市の実現」

本市における高齢化は、全国的な傾向ほどではないものの、長寿命化により着実かつ急速に進行している。高齢化が進むと、政策面では扶助費の増加が見込まれるとともに、地域社会における高齢者の孤立や高齢者のケアに携わる家族の負担増等により市民の健やかな暮らしが脅かされる懸念がある。こうした課題の解消には、全市民が生涯にわたって心身ともに健やかに、地域社会の中で生活できることが重要である。

そこで、健幸都市の実現を目的として、市民「自ら」が健康意識を高められる、地域特性を活かした環境整備について検討するとともに、これまで自治体ではあまり取り組まれてこなかった様々な人と人との「つながり」が、どのように健康に影響を与えるかを調査し、最も本市に適した在り方を検討する。

### 「地域の明日を拓く 未来世代の育成」

本市では、ものづくり産業による好調な雇用動向を反映して、年少人口比率は高い割合で推移しているものの、少子化は着実に進行している。こうした背景には、非正規雇用の増加による低所得者層の増加、結婚や出産に対する価値観の変化等が考えられ、少子化の要因となっている課題を把握し、少子化問題を社会全体で解決していく取り組みが望まれる。

本市において年少人口が増加するには、出生数(自然増)の増加はもとより、転入者数(社会増)を増やすことが重要となる。そこで、若い世代が本市を居住の場とするとともに、子どもを産むことを選択する、また、子どもを持つ世帯が本市で子育てするために転入を選択することを目標とし、そうした行動を実施するための条件や環境整備のあり方について検討する。

### 「生活の質を高める ユニバーサルシティの構築」

今後、環境問題が一層の深刻さを増すとともに、エネルギーの安定供給が求められる中、地方都市においても、都市構造や市民生活を効率的かつ持続可能なものへと転換が求められる可能性がある。また、本市では、リニア中央新幹線の開通がもたらすインパクトや当地域に集積する次世代自動車技術等を経済発展に効果的に活用するとともに、その恩恵を市民生活に取り込めるような戦略的な地域づくりが求められる。

そこで、人やモノ・エネルギーの動きに着目し、市民の生活の質と効率性を高めるための「人にやさしい」交通ネットワークの在り方や、「環境にやさしい」都市構造について調査研究を進め、本市のあるべき都市構造の姿を検討し、そこで営まれる市民生活の持続と向上を図るための新たなライフスタイルを提示する。また、ICTや次世代モビリティ技術を活用し、地域経済の活性化とまちの賑わいを創出する先駆的な具体策について検討する。

## ☆ 準備室期間(平成 25 年 10 月～平成 26 年 3 月)の活動として

- ✓ 学識経験者等との協議(計 51 回)
- ✓ 住民基本台帳をベースにした人口推計の作成
- ✓ 国勢調査等の既存統計情報の整理(人口構成、出生数(率)、未婚率、労働力率、従業地など)
- ✓ 少子高齢化を踏まえた各課の考える「将来」の課題調査
- ✓ その他に、先進事例の視察、庁内向け情報発信 など